

第 34 回日本植物形態学会評議員会議事録(案)

日時：2022 年 9 月 16 日 10:30-11:30

場所：京都府立大 歴彩館

1. 報告事項

(1) 会長挨拶（野崎会長）

(2) 庶務報告（2021 年度大会（東京）報告を含む）（林庶務幹事）

会員数の報告、例年 250-260 人程度の会員が在籍。会費を払っていない会員もいるので、大会が終わり次第整理する。2021 年度の活動説明を行った。

(3) 編集委員会報告（稲田編集長）

昨年度まで Plant Morphology の印刷を行っていた正堂加藤の廃業に伴い、今年度からイセブ社に印刷を依頼した。退会手続きを忘れた学生がおり、その分学会誌を余分に印刷して、廃棄している現状なので卒業生には退会手続きを進めてほしい。

質問：印刷費、修正費のところは Vol.32 が Vol.33 に訂正すべきでは。総会では訂正する。

質問：Vol.33 の 602000 円は別刷り代を含んでいるのでは？総会までに確認。

(4) 広報委員会報告（秋田広報委員）

HP への積極的な投稿を呼びかけた。

(5) 会計報告（2021 年度決算）／会計監査報告（三角会計幹事／野口会計監査）

昨年度の収入についての報告を行った。繰越金 1,380,555 円、学会費収入、別刷り代収入について報告。

昨年、宮沢会員(前庶務幹事)が未納会員をある程度整理した。

昨年度の支出についての報告を行った。

Plant Morphology 関連、学会 3 賞関連、大会支出(昨年はオンライン開催だったので会場費等不要、植物学会大会への広告費のみ)、事務費、生物科学学会連合関連費。

次年度繰越金は 1,446,681 円

会計監査報告を行った（野口会計監査）

オンラインで三角会計幹事と共に会計監査を行った。適性に行われていることを認めた。

野口会員からの提案：会計監査書類の宛名が峰雪先生になっている。監査の日付時点では会長は野崎会長なので宛名も野崎会長にすべきではないか、書面の西暦と和暦を統一すべきというご意見を頂いた。

(6) 3 賞選考要領について（林庶務幹事）

本年度から選考要領に細則を付記した。今年度の総会で選考要領を変更せず、今年度のやり方で来年度も行う予定。細則の文言については来年度までに見直す。

(7) 3 賞選考結果について（酒井選考委員長）

選考委員、日程、結果を説明。

(8) 雑誌 Plant Morphology の今後について（林庶務幹事）

Plant Morphology の今後について話し合う WG を作成した。

総会の前に決定して良い案が出てきたら臨時の評議員委員会で決定する予定。

質問（高野会員）：会員全員の意見を募った後で評議員委員会等で決めた方が良いのではないか。

林庶務幹事：一度全員の意見を伺う機会を設ける予定。

(9) 2022 年度大会（京都）について（林庶務幹事）

2022 年度大会の開催の経緯を説明した。

(10) 2023 年度大会（札幌）について（林庶務幹事）

2023 年度大会の開催予定を説明した。

(11) その他(野崎会長)

20条に基づいて会長が大会実行委員長と別に大会実行委員を1名新役員として任命したことを報告した。

2. 審議事項

(1) 2022年度事業計画案について(林庶務幹事)

2022年度計画案を説明し、承認された。

(2) 2022年度予算案について(岩元)

2022年度予算案について説明した。

今年度はハイブリッドなので、大会参加費の収入がある。支出は例年通りの支出項目。

繰越金は1518280円の予定だが、会費収入が変動するので実際にはどうなるかわからない。

予算案は承認された。

(3) 総会議長候補の選出について(林庶務幹事)

議長を高野会員にお願いする旨、承認された。

(4) 総会・授賞式プログラムについて(林庶務幹事)

総会・授賞式プログラムは全員賛成で承認された。

(5) その他

今年度の3賞選考委員長は選考委員で投票したところ2名が同票となり、くじ引きで決めた。

来年度同じことが起こった場合の決定方法は評議会で決める。

ポスター賞が同票だった場合、2、3名に与えるという案が野崎会長から出され了承された。